

事業紹介・事業報告

「第9回国土技術開発賞」の報告



鶴飼貴昭

研究第二部
上席主任研究員

1. はじめに

「国土技術開発賞」は、建設分野における技術開発者に対する研究意欲の啓発と建設技術水準の向上を図ることを目的として、建設分野における優れた新技術及びその開発に貢献した技術者を対象に表彰する制度である。

JICE 創立 25 周年である平成 10 年度を機に、旧建設省の後援のもと、「建設技術開発賞」と称して創設（平成 11 年度より表彰を開始）し、平成 13 年 1 月の国土交通省発足を契機に「国土技術開発賞」と改称するとともに、財団法人沿岸技術研究センターとの共催で実施するものとし、対象とする技術分野を拡大した。本年は第 9 回の表彰を行った。

2. 第9回国土技術開発賞の概要

2.1 実施主体

(1) 主催

(財) 国土技術研究センター (JICE)

(財) 沿岸技術研究センター (CDIT)

(2) 後援

国土交通省

(3) 協賛

(財) 日本建設情報総合センター (JACIC)

(財) 先端建設技術センター (ACTEC)

(財) 港湾空港建設技術サービスセンター (SCOPE)

2.2 対象技術

住宅・社会資本に係わる、計画・設計手法、施工方法、維持管理手法、材料、機械などの広範に亘る技術で、概ね過去 5 年以内に技術開発され、かつ過去 3 年以内に実用に供された新技術とした。

2.3 応募資格等

(1) 応募者

応募技術を中心となって開発した者（「個人^(*)」、「民間法人」、「行政機関等^(**)」）。

(*)：大学等の研究・教育機関に所属する学識経験者等。

(**)：国及び地方公共団体等、特殊法人、独立行政法人及び公益法人とそれらに付属する研究機関等の全ての機関。

(2) 共同開発者

共同開発者は、応募技術の開発に関し、応募者とならないまでも参画を行った者（個人、民間法人、行政機関等）とし、応募技術が入選した際の表彰対象とはならないが公表対象とした。

(3) 技術開発者

技術開発者は、応募技術の開発に“直接”かつ“中心”となって携わった者の内、“技術的に重要な役割”を担った担当者とした。

なお、応募者並びに共同開発者以外の民間法人等に所属する者も技術開発者の対象とした。

2.4 募集期間

平成 19 年 2 月 1 日(木)から平成 19 年 4 月 13 日(金)

2.5 選考方法

選考は、第 9 回国土技術開発賞選考委員会を設置して実施した。選考委員会のメンバーは以下の通り。

委員長 中村英夫（武蔵工業大学学長）

委員 中川博次（立命館大学客員教授）

// 国土交通省 技監

// 同 大臣官房技術総括審議官

// 同 大臣官房技術審議官

// 同 国土技術政策総合研究所長

// 同 国土地理院長

// (独) 土木研究所 理事長

// (独) 建築研究所 理事長

// (独) 港湾空港技術研究所 理事長

// JICE 理事長

// CDIT 理事長

選考に当たっては、応募者より提出された応募書類に記載されている内容をもとに、技術開発の効果、汎用性、独創性の 3 つの視点から総合的に評価した。

特に、技術開発の効果は、応募技術を実際の現場に適用した際のより具体的な事例について、工事コストの縮減、工期の短縮、ライフサイクルコスト等の「直接的効果」と、

時間便益コスト（交通規制時間の短縮等による社会効果等）、環境負荷の低減、耐震性、防災機能の向上等の「間接的効果」に分けて評価を行った。

2.6 選考結果

第9回国土技術開発賞では、民間企業等から46件（第1回:75件、第2回:43件、第3回:59件、第4回:45件、

第5回:60件、第6回:49件、第7回:58件、第8回:36件）の応募があり、建設分野全般にわたる大変幅広いものであり、その内容についても、工法、機械、材料などのハード面の技術開発から調査・計測などのソフト面の技術開発、さらには、これらのハード面とソフト面の融合を旨とされた技術開発など多岐に亘っていた。また、いずれ

表-1 第9回国土技術開発賞 受賞技術一覧

(受賞技術概要等は <http://www.jice.or.jp/> へ掲載)

賞	受賞技術名称	応募者名 〔共同開発者名〕	技術開発者名
最優秀賞 【1件】	石垣修復支援システム	清水建設（株） ^{（注）} 〔宮内庁管理部〕 〔（株）計測リサーチコンサルタント〕 〔日石石材（株）〕	清水建設（株） 山内裕之・吉田 順 宮内庁 根岸明廣・富沢和義 （株）計測リサーチコンサルタント 西村正三・藏重裕俊 日石石材（株） 渡辺昌照・村上金治
優秀賞 【3件】	パラレル構法の開発	鹿島建設（株） ^{（注）} （株）富士ピー・エス	鹿島建設（株） 五十殿侑弘・荒木玄之 （株）富士ピー・エス 長尾徳博・田中恭哉
	大断面分割シールド工法 （ハーモニカ工法）	大成建設（株） ^{（注）} 〔石川島播磨重工業（株）〕 〔石川島建材工業（株）〕	大成建設（株） 植田堅朗・小柳善郎 石川島播磨重工業（株） 門田克美・中根 隆 石川島建材工業（株） 若林正憲・進藤芳典
	自動漏水検知修復システム	（株）浅沼組 ^{（注）} 〔（株）田中〕	（株）浅沼組 下西四郎・森山保彦 （株）田中 村上 豊
入賞 【5件】	ボンテラン工法	（株）森環境技術研究所 東北大学 高橋 弘	（株）森環境技術研究所 森 雅人
	UCIS （ケーソン無人化据付システム）	五洋建設（株） ^{（注）}	五洋建設（株） 眞鍋 匠
	拡頭リング工法	清水建設（株） ^{（注）} 住友金属工業（株） ^{（注）}	清水建設（株） 大槻 明・磯田和彦 住友金属工業（株） 田中宏征・小林洋一
	海面処分場の容量拡大技術	東京都港湾局 〔日本工営（株）〕 〔五洋建設（株）〕	東京都 石山明久 日本工営（株） 大槻康雄 五洋建設（株） 山下 徹
	連続サイホン式取水設備	八千代エンジニアリング ^{（株）} 〔（財）ダム技術センター〕	八千代エンジニアリング（株） 寺田 溥

^{（注）} 規定により、当該法人に所属する技術開発者を表彰。

の技術も技術開発者の意欲と創意工夫に満ちたものであった。

これらの応募技術の中から、第9回国土技術開発賞選考委員会の厳正かつ公正なる選考により、

最優秀賞 1件（国土交通大臣表彰）

優秀賞 3件（国土交通大臣表彰）

入賞 5件（選考委員会委員長表彰）

の計9件を表彰対象として決定した（表-1）。

2.7 第9回国土技術開発賞表彰式

第9回国土技術開発賞の表彰式は、平成19年7月18日に、技監をはじめとする国土交通省の関係者の方々、並びに関係団体から多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、盛大かつ終始和やかな雰囲気で行うことができた（写真-1）。

また、各賞の表彰においては、最優秀賞並びに優秀賞については谷口博昭国土交通省技監より表彰状及び副賞を（写真-2）、入賞については中村英夫選考委員会委員長より表彰状等を、それぞれ受賞技術を開発した法人代表者並びに技術開発に携わった代表者に対して、直接授与いただいた。



写真-1 第9回国土技術開発賞表彰式(平成19年7月18日)

3. 第2回ものづくり日本大賞

3.1 国土技術開発賞ともものづくり日本大賞の関係

「ものづくり日本大賞」は、我が国産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくことを目的として、平成16年度に政府が創設した表彰制度である。

最先端の技術から伝統的・文化的な「技」まで幅広い分野において中核を担う中堅世代のうち、特に優秀と認められる人材（ものづくり名人）に対して、2年に1回、内閣総理大臣より表彰が行われる。

ものづくり日本大賞においては、「産業・社会を支えるものづくり」分野の内、「①製造・生産プロセス部門」、「②製品・技術開発部門」、「③伝統技術の応用部門」といった3部門について、建設分野の技術も対象とされている。

国土技術開発賞は、既にこの分野を含む技術を対象に国土交通大臣表彰を行う事業として展開していたことから、国土技術開発賞において最優秀賞並びに優秀賞を受賞した技術の技術開発者を、ものづくり日本大賞における内閣総理大臣表彰の候補者として、国土交通省に設置される『ものづくり日本大賞「産業・社会を支えるものづくり」分野



写真-2 第9回国土技術開発賞表彰式(平成19年7月18日)
<最優秀賞>「石垣修復支援システム」

中央：国土交通省技監 谷口博昭氏

写真左：清水建設（株） 山内裕之氏

写真右：（株）計測リサーチコンサルタント 西村正三氏

(建設業に係るものに限る)に係る選考有識者会議(以下、「選考有識者会議」という。)へ推薦することとなっている。

3.2 第2回ものづくり日本大賞の受賞

第2回ものづくり日本大賞においては、その候補者として、第8回並びに第9回の国土技術開発賞にて最優秀賞(国土交通大臣表彰)並びに優秀賞(同)に選ばれた技術(技術開発者)を第2回選考有識者会議へ推薦した。その後、同選考有識者会議にて選考がなされ、その結果が内閣官房へ上申された。

その結果、第2回ものづくり日本大賞の「製品・技術開発部門」においては、第8回国土技術開発賞の最優秀賞である「インパイロワン工法」の技術開発者が、また「伝統技術の応用部門」においては、第9回国土技術開発賞の最優秀賞である「石垣修復支援システム」の技術開発者が内閣総理大臣賞として決定され、去る平成19年8月10日に首相官邸にて開催された第2回ものづくり日本大賞授与式にて、安倍晋三前首相より表彰を受けた(写真-3、4)。



写真-3 第2回ものづくり日本大賞授与式(平成19年8月10日)
(安倍前首相とインパイロワン工法の技術開発者)

4. おわりに

国土交通省においては、国民の安全・安心を確保し、快適で豊かな国民生活の実現のために、様々な取組みを推進されている。

国民生活を支える社会資本を効率的かつ効果的に整備、維持していく上では、建設分野における技術開発が積極的に行われる環境づくりが求められており、国土技術開発賞における顕彰が、産学官民の建設技術者による常日頃からの技術開発、またその活用促進を積極的に行える環境づくりの一助となれば幸いである。

JICEとしては、引き続き、国土技術開発賞で受賞された最先端のわが国の建設技術が実効あるものとなるよう国内外へ情報発信し、技術開発に携わられた方々の努力の成果を広く伝えていきたい。



写真-4 第2回ものづくり日本大賞授与式(平成19年8月10日)
(安倍前首相と石垣修復支援システムの技術開発者)